



EU 研究ディプロマプログラム(EU-DPs)
2017年度 シラバス
- 学部生対象(入門科目) -

最終更新日: 2017 年 10 月 18 日

※EU-DPs 科目の開講状況やシラバスの内容は変更になる場合があります。

シラバス参照



講義科目名	EU論基礎-制度と経済-
科目ナンバリングコード	KED-ASC2231J
講義題目	
授業科目区分	高年次基幹教育科目 KIKAN education subjects for students in the second year and above
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 火曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	岩田 健治 フェニック M. D.
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	箱崎地区
使用言語	英語及び日本語を併用 (E/J)
使用言語 (自由記述欄)	岩田が担当する講義は日本語で、Fenwick(フェニック)が担当する講義は英語で、それぞれ行います。
教室	大講義室
その他 (自由記述欄)	本講義は、経済学部の岩田健治と法学部のMark Fenwick(マーク・フェニック)の2名が担当する学際的講義ですが、上記2学部以外の全ての学部生の受講を歓迎します。

授業概要	<p>EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっています。この講義では、EUの基本的なことがらについて、経済学・法学の視点から総合的に学びます。経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、また、法制度編では、EU進展の歴史、EUの組織と制度の概要、EU立法手続き、EU法の諸原則、欧州裁判所の役割と代表的な判例などを、それぞれ学びます。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得することができるでしょう。</p> <p>Since the establishment of the ECSC in 1951, the European Union (EU) has performed both a “deepening” by establishing the Internal Market and the Single Currency and a “widening” by increasing Member States from the original 6 to 28. In doing so, it has been able to establish its influence in the world. This course covers basic topics of the EU from the viewpoint of economics, as well as law. The economic part of the course deals with theories and the history of the EU economic integration and the current situations of the EU economy etc. The legal part deals with the background and development of the EU, an outline of EU institutions, the EU’s legislative procedures, general principles of EU law, the role of the Court of Justice, including a look at selected cases etc. Students are expected to receive a thorough exposure to a wide range of current EU-related topics at an introductory level.</p>
キーワード	EU(欧州連合)、ヨーロッパ、経済統合、単一市場法
履修条件等	特にありません。

履修に必要な知識・能力	経済学・法律学の基礎知識があると理解が容易となりますが、なくてもヨーロッパや地域の統合に何らかの関心があれば履修可能です。フェニックが担当するEU法に係る授業と成績評価(レポート)は英語で行われるため、英語で授業を正確に理解し、それに基づいて英語でレポートを作成する能力が求められます。																																																																																									
到達目標	<table border="1" data-bbox="252 224 1252 425"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>EUに関する経済学的知識</td> <td>ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>EUに関する法律学的知識</td> <td>EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。</td> </tr> </tbody> </table>										No	観点	詳細	1.	EUに関する経済学的知識	ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。	2.	EUに関する法律学的知識	EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。																																																																							
No	観点	詳細																																																																																								
1.	EUに関する経済学的知識	ヨーロッパ経済統合の歴史やEU経済の現状など、EUに関する基礎的な知識を幅広く修得します。																																																																																								
2.	EUに関する法律学的知識	EUの制度の仕組みや一般法原則など、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得します。																																																																																								
授業計画	<table border="1" data-bbox="252 459 1252 1411"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1.</td><td>第1講(岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2.</td><td>第2講(岩田) 経済統合の論理とEUの機構</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3.</td><td>第3講(岩田) 関税同盟と単一市場(1)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4.</td><td>第4講(岩田) 関税同盟と単一市場(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5.</td><td>第5講(岩田・畑山敏夫) 特別講義: フランス大統領選挙とEU(仮)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6.</td><td>第6講(岩田) 通貨協力と単一通貨(1)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7.</td><td>第7講(岩田) 通貨協力と単一通貨(2)</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8.</td><td>第8講(岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9.</td><td>第9講(Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10.</td><td>第10講(Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11.</td><td>第11講(Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12.</td><td>第12講(Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13.</td><td>第13講(Fenwick) The Euro Crisis & the Law</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14.</td><td>第14講(Fenwick) Brexit</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15.</td><td>第15講(岩田・Fenwick) Class Review & Exam Preparation</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>										No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	第1講(岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について	○			2.	第2講(岩田) 経済統合の論理とEUの機構	○			3.	第3講(岩田) 関税同盟と単一市場(1)	○			4.	第4講(岩田) 関税同盟と単一市場(2)	○			5.	第5講(岩田・畑山敏夫) 特別講義: フランス大統領選挙とEU(仮)	○			6.	第6講(岩田) 通貨協力と単一通貨(1)	○			7.	第7講(岩田) 通貨協力と単一通貨(2)	○			8.	第8講(岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える	○			9.	第9講(Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case	○			10.	第10講(Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case	○			11.	第11講(Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case	○			12.	第12講(Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases	○			13.	第13講(Fenwick) The Euro Crisis & the Law	○			14.	第14講(Fenwick) Brexit	○			15.	第15講(岩田・Fenwick) Class Review & Exam Preparation	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																																																						
1.	第1講(岩田・フェニック) ガイダンス-EUについて学ぶことの意義について	○																																																																																								
2.	第2講(岩田) 経済統合の論理とEUの機構	○																																																																																								
3.	第3講(岩田) 関税同盟と単一市場(1)	○																																																																																								
4.	第4講(岩田) 関税同盟と単一市場(2)	○																																																																																								
5.	第5講(岩田・畑山敏夫) 特別講義: フランス大統領選挙とEU(仮)	○																																																																																								
6.	第6講(岩田) 通貨協力と単一通貨(1)	○																																																																																								
7.	第7講(岩田) 通貨協力と単一通貨(2)	○																																																																																								
8.	第8講(岩田) EUの未来-ユーロ危機とBrexitについて考える	○																																																																																								
9.	第9講(Fenwick) Introduction to EU Law: The Van Gend En Loos case	○																																																																																								
10.	第10講(Fenwick) The Free Movement of Goods: The Cassis De Dijon Case	○																																																																																								
11.	第11講(Fenwick) The Free Movement of Workers: The Bosman Case	○																																																																																								
12.	第12講(Fenwick) The Free Movement of Capital: The Golden Share Cases	○																																																																																								
13.	第13講(Fenwick) The Euro Crisis & the Law	○																																																																																								
14.	第14講(Fenwick) Brexit	○																																																																																								
15.	第15講(岩田・Fenwick) Class Review & Exam Preparation	○																																																																																								
授業以外での学習にあたって	EUやヨーロッパに関するニュースや新聞記事を積極的に活用して下さい。																																																																																									
テキスト	特定のテキストは利用しません。																																																																																									
参考書	<p>全体を通した参考図書: 庄司克宏『はじめてのEU法』有斐閣, 2015年。 羽場久美子編『EU(欧州連合)を知るための63章』明石書店, 2013年。 森井裕一編著『ヨーロッパの政治経済・入門』有斐閣, 2012年。 Herman Lelieveldt, Sebastiaan Princen, The Politics of The European Union, Cambridge University Press, 2011. この他の参考図書については、講義の進行に沿って提示します。</p>																																																																																									
授業資料																																																																																										
成績評価	<table border="1" data-bbox="252 1892 1252 2128"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考(欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)		◎																																																																				
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)																																																																																	
	◎																																																																																									

	◎
成績評価基準に関わる補足事項	岩田が担当する経済編は学期末試験により評価し(50点)、フェニックが担当する法制度編はレポートにより評価し(50点)、両者の合計点(100点満点)をもとに成績を出します。
ループリック	☆EU論基礎2017.pdf
学習相談	授業内容その他に関してわからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員にコンタクトをとって質問して下さい。 経済分野:岩田 健治 jwata@econ.kyushu-u.ac.jp 政治分野:Mark Fenwick mark@law.kyushu-u.ac.jp
添付ファイル	
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html EU-DPs科目の中でもEUそのものを扱う「入門科目」ですので、同プログラム登録者は是非受講して下さい。
更新日付	2017-03-30 20:05:13.815



シラバス参照



講義科目名	歴史学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1131J
講義題目	大航海時代における西洋文明の自己、他者認識
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 月曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	岡崎 敦
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>西洋文明は、世界の一体化と近代化によって、地球上のさまざまな諸文明、文化に圧倒的な影響を及ぼしてきました。他方、その普遍性への主張に対する懐疑もまた、西欧文明のなかから生まれてきたのです。21世紀の現在、西洋文明は、現在もおさまぎまな領域で世界秩序を基礎付けている近代文明の母胎として、また多様な諸文化の一つとして、西洋人自身のみならず、世界の多様な人々によって研究され続けています。特に、中世と呼ばれる時代は、西洋近代文明のはじまりとみなされ続けた一方で、西洋人自身にとつてすら「異文化」と感じられる固有な性格も有しています。</p> <p>この授業では、中世末期から大航海時代と称される時期における、西洋人の世界認識と自己認識について論じるとともに、異文化接触における相互変容について考えます。</p> <p>This course provides an in-depth examination of specific aspects of the European history. The course especially touches on relevant topics on the encounters of the Western and Eastern Civilizations.</p>						
キーワード	西洋史、交流史、世界認識、他者認識、大航海時代						
履修条件等							
履修に必要な知識・能力							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

到達目標	1.	A:知識・理解	専門分野の基礎知識に基づいて、人間と社会のあり方とそれへの多様なアプローチを理解できる。							
	2.	B:専門的技能	系統立てて整理する論理的思考能力を、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へ活用できる。							
	3.	C:汎用的技能	知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。							
	4.	D:態度・志向性	専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ							
授業計画	No	進度・内容・行動目標				講義	演習・その他	授業時間外学習		
	1.	序論:ガイダンス、授業の趣旨				○				
	2.	第1部:大航海時代直前の西欧における世界認識				○				
	3.	第2部:プレスター・ジョンとポルトガル人				○				
	4.	第3部:新大陸の発見とはなにか。スペイン人と先住民				○				
	5.	第4部:インディオとは何か。他者との公正な関係とは何か				○				
	6.	おわりに:自己認識と他者認識という構図				○				
授業以外での学習にあたって	参考文献リストに提示した文献、資料等を参照すること。									
テキスト										
参考書	参考文献リストを、授業で配布する。									
授業資料	授業資料を、配布する。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	◎	◎					
成績評価基準に関わる補足事項	レポート(Report) 100%									
ルーブリック										
学習相談	授業の前後に対応する。									
添付ファイル										
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexip.html									
更新日付	2017-04-05 17:40:13.234									



シラバス参照



講義科目名	文学・言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	スタンダール『赤と黒』を読む
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	高木 信宏
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2212
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>本講義で取り上げるのは、19世紀フランスの作家スタンダールが書いた長編小説『赤と黒』です。フランス本国のみならず世界的にも古典として位置づけられている作品であり、各国語に翻訳され、読み継がれています。日本でも岩波文庫、新潮文庫、光文社古典新訳文庫から邦訳が刊行されていて、すでに数多くの読者をもっています。授業では、歴史と近代小説の関係、作者のパーソナリティと創作行為との関係、本作品に特有の執筆方法、さらにはテキストの諸テーマがもつ意味や構成上の役割について考察していきながら、『赤と黒』を味読したいと考えています。</p> <p>This course provides a foundation for the close reading of french modern novel by focusing on Stendhal's "The Red and the Black". This includes analysis of basic diction, style and fiction device.</p>						
キーワード	フランス文学 近代小説 スタンダール						
履修条件等	テキストにはフランス語原典ではなく邦訳を使用しますが、それでも上・下巻を合わせるとかなり頁数となります。これを読破する意欲が履修の条件です。						
履修に必要な知識・能力	異文化に対する知的好奇心。他の国の歴史・社会・文化に対する理解力。文学作品に対する関心。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

PAGE TOP

到達目標	1. A:知識・理解	作品のもつ文学史的な意義や独創性を文学史的に位置づけられること。								
	2. B:専門的技術	作品中の挿話や登場人物の心理・行動がもつ意味を、フランスの歴史・社会状況に照らして解釈できること。テーマや構成、技法について掘り下げて考察できること。								
	3. C:汎用的技術	他の文学作品へと関心をひろげるとともに、現代社会に対する批評的な視点をもつこと。								
	4. D:態度・志向性	協調性を重んじ、他の人の意見を尊重しつつ、持論を展開できること。								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	初回オリエンテーション(授業内容の説明と作家の紹介)	○							
授業以外での学習にあたって	授業中に言及する他の作家の作品についても積極的に翻訳を読み、仏文学に関する知見を深めてください。									
テキスト	テキストには『赤と黒』の邦訳を使用します。九大生協の書籍部等で文庫版の『赤と黒』(上下2巻)を入手しておいてください。									
参考書	参考文献については授業中に指示します。									
授業資料	適宜プリントを配布します。									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	○						
		○	○	○						
		○	○	○						
成績評価基準に関わる補足事項	毎回出席調査をおこないます。									
ループリック										
学習相談	授業後に対応します。									
添付ファイル										
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。 http://www.euji-kyushu.com/jp/home/index.html									
更新日付	2017-03-21 11:11:45.761									



シラバス参照



講義科目名	文学・言語学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1141J
講義題目	恋愛と読書
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 金曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	小黒 康正
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	日本語
教室	2306
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>恋愛を主題とするヨーロッパの文学作品には、主人公の読書の姿をさりげなく描くものが多い。文学における新しい美の創造は、新しい「恋愛観」の提示であるばかりではなく、新しい「読書観」の検証でもある。本講義では、「愛すること」と「読むこと」との混淆という視点から、ヨーロッパ文学の名著をひもとく。具体的には『ドン・キホーテ』、『若きウェルテルの悩み』、『赤と黒』などを中心に扱い、併せて近現代日本文学の『三四郎』、『友情』、『ノルウェイの森』と比較検討する。</p> <p>This lecture course focuses on selected works by Cervantes, Wieland, Goethe, Stendhal, Maupassant, Thomas Mann, Soseki Natsume, Saneatsu Mushano, Haruki Murakami in order to provide an overview of the basic perspectives and concepts of live and reading in modern European and Japanese literature.</p>						
キーワード	恋愛、読書、セルバンテス、ヴィーラント、ゲーテ、スタンダール、モーパッサン、トーマス・マン、夏目漱石、武者小路実篤、村上春樹						
履修条件等							
履修に必要な知識・能力							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

PAGE TOP

到達目標	1. A:知識・理解	西洋文学に対する理解を深める。								
	2. B:専門的スキル	文学研究の基礎を学ぶ。								
	3. C:汎用的スキル	自らの思索を自らの言葉で論述するスキルを学ぶ。								
	4. D:態度・志向性	人文学全般に対する視座を学ぶ								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	導入	○							
	2.	夏目漱石『三四郎』(1908)[新潮文庫]	○							
	3.	武者小路実篤『友情』(1919)[新潮文庫]	○							
	4.	村上春樹『ノルウェイの森』(1987)[講談社文庫、上・下]	○							
	5.	セルバンテス『ドン・キホーテ』(1605、1615)[岩波文庫、正編一～三、永田寛定訳]	○							
	6.	ヴィーラント『王子ビリンカー物語』(1764)①[同学社、小黒康正訳]	○							
	7.	ヴィーラント『王子ビリンカー物語』(1764)②[同学社、小黒康正訳]	○							
	8.	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1774)①[新潮文庫、高橋義孝訳]	○							
	9.	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1774)②[新潮文庫、高橋義孝訳]	○							
	10.	ゲーテ『親和力』(1809)[講談社文芸文庫、柴田翔訳]	○							
	11.	スタンダール『赤と黒』(1830)[新潮文庫、上・下、小林正訳]	○							
	12.	モーパッサン『女の一生』(1883)[新潮文庫、新庄嘉章訳]	○							
	13.	トーマス・マン『魔の山』(1924)①[新潮文庫、上・下、高橋義孝訳]	○							
	14.	トーマス・マン『魔の山』(1924)②[新潮文庫、上・下、高橋義孝訳]	○							
	15.	まとめ	○							
授業以外での学習にあたって										
テキスト	①夏目漱石『三四郎』[新潮文庫]、②ヴィーラント『王子ビリンカー物語』[同学社、小黒康正訳]、③ゲーテ『若きウェルテルの悩み』[新潮文庫、高橋義孝訳]は、必ず購入してください。他の作品に関しましては、各自の判断に任せます。									
参考書	小黒康正『水の女 トボスへの船路』、九州大学出版会、2012年。									
授業資料										
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
					○					
		◎	◎							
成績評価基準に関わる補足事項	本授業の終了後、ならびにオフィスアワー(火曜3限)にて相談に応じる。									
ルーブリック	→									

学習相談	本授業の終了後、ならびにオフィスアワー(火曜3限)にて相談に応じる。
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-03-02 21:53:10.427



シラバス参照



講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 月曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	東口 豊
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。</p> <p>****</p> <p>他の「芸術学入門」では視覚芸術、主に美術作品をテーマにしたものばかりなので、本講義ではそれらを補完し、芸術学という学問の総合的理解を促すために、美学思想、音楽、写真を題材に講義する。</p> <p>In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word “art” tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one’s heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.</p>
キーワード	美学、音楽、写真、映画
履修条件等	特になし。ただし、初回時受講者多数の場合、受講制限を行う可能性がある。

履修に必要な知識・能力	哲学史、音楽理論、写真史等に関する初歩的知識と関心がないと、講義の内容を理解し単位を修得する事は困難である。																																																											
到達目標	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:5%;">No</th> <th style="width:25%;">観点</th> <th style="width:70%;">詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A:知識・理解</td> <td>美学や様々なジャンルの藝術に関する知識や理解を得る。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>B:批判的考察</td> <td>議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>C:主体的学習</td> <td>議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>D:幅広い視座</td> <td>与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。</td> </tr> </tbody> </table>										No	観点	詳細	1.	A:知識・理解	美学や様々なジャンルの藝術に関する知識や理解を得る。	2.	B:批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。	3.	C:主体的学習	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。	4.	D:幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																																			
No	観点	詳細																																																										
1.	A:知識・理解	美学や様々なジャンルの藝術に関する知識や理解を得る。																																																										
2.	B:批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。																																																										
3.	C:主体的学習	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。																																																										
4.	D:幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																																																										
授業計画	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:5%;">No</th> <th style="width:45%;">進度・内容・行動目標</th> <th style="width:5%;">講義</th> <th style="width:10%;">演習・その他</th> <th style="width:35%;">授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>初回オリエンテーション 以下、2～4について各4回程度講義を行う。</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>藝術や美的経験を扱う哲学的学科である「美学」を概観する。</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td>毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>音楽作品の成り立ちや、その文化的・社会的意義を問う。</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td>毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>写真の藝術的側面、現実との関係や日常への影響を考える。</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td>毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	初回オリエンテーション 以下、2～4について各4回程度講義を行う。	○			2.	藝術や美的経験を扱う哲学的学科である「美学」を概観する。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成	3.	音楽作品の成り立ちや、その文化的・社会的意義を問う。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成	4.	写真の藝術的側面、現実との関係や日常への影響を考える。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成	5.	まとめ																							
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																								
1.	初回オリエンテーション 以下、2～4について各4回程度講義を行う。	○																																																										
2.	藝術や美的経験を扱う哲学的学科である「美学」を概観する。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成																																																								
3.	音楽作品の成り立ちや、その文化的・社会的意義を問う。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成																																																								
4.	写真の藝術的側面、現実との関係や日常への影響を考える。	○		毎回、講義後に課題の論文提出と小レポート作成																																																								
5.	まとめ																																																											
授業以外での学習にあたって																																																												
テキスト	講義中に適宜配布する。																																																											
参考書	講義中に適宜配布する。																																																											
授業資料	適宜配布する。																																																											
成績評価	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:5%;">評価方法・観点</th> <th style="width:10%;">観点No.1</th> <th style="width:10%;">観点No.2</th> <th style="width:10%;">観点No.3</th> <th style="width:10%;">観点No.4</th> <th style="width:10%;">観点No.5</th> <th style="width:10%;">観点No.6</th> <th style="width:10%;">観点No.7</th> <th style="width:10%;">観点No.8</th> <th style="width:10%;">備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align:center;">60%</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align:center;">20%</td> </tr> <tr> <td>課題提出</td> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align:center;">20%</td> </tr> </tbody> </table>										評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)												◎	◎	◎	◎					60%		○		○						20%	課題提出		○		○					20%
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																																																			
	◎	◎	◎	◎					60%																																																			
	○		○						20%																																																			
課題提出		○		○					20%																																																			
成績評価基準に関わる補足事項	出席が2/3を下回る場合や、課題を全て提出しなかった者は、期末レポートを提出し、単位修得する権利を失うので注意してください。																																																											
ルーブリック																																																												

学習相談	要予約
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-10 08:24:29.388



シラバス参照

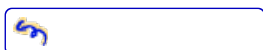


講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	西洋初期近代／北方絵画史
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 木曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	青野 純子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2303
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。</p> <p>*****</p> <p>「初期近代北方ヨーロッパ絵画を中心とした芸術学入門」 絵画をどのように見て、いかに理解するのか。美術史研究の基礎である絵画の見方を「授業計画」であげたテーマに沿って学んでいく。授業中に取り上げる対象は初期近代(17世紀まで)のオランダ、ベルギー地方のヨーロッパ絵画を中心とする。年代ごとに作家・作品を扱うのではなく、絵画作品を目の前にしたときに立ち上がってくる諸々の問題をどうとらえ、分析・議論していくのか、そうした絵画との対話を出発点に考察を深めていく。</p> <p>In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.</p> <p>*****</p> <p>Introduction to Art Studies, with a special focus on Netherlandish painting of the early modern period. This course equips students with the fundamental skills and perspectives to understand Northern European art of the early modern period. Students learn how to look at and critically approach works of art in the cultural and social context in which they were created, viewed and evaluated. The course is designed to provide students with broad, humanistic knowledge and an analytic way of thinking, which serves a perfect preparation for advanced studies in a wide range of disciplines.</p>
------	---

キーワード	西洋美術史、絵画史、美術史方法論、オランダ絵画																																											
履修条件等	特になし。ただ、趣味としての美術鑑賞ではなく、学問としての美術史を学ぶことを目的とするので、作品を批判的・総合的に理解し、自分なりの絵画の見方を積極的に模索したいという意欲のある学生を求める(下記「成績評価基準に関する補足事項」も必ず参照のこと)。ただし、受講希望者が教員が決める定員をこえる際には、その都度検討した上で、受講制限をすることになるので要注意。また、必ずパソコンを持参のこと。																																											
履修に必要な知識・能力	美術史に関する知識は問わないが、芸術に関心があり、絵画を見るのが好きだという態度が必須。																																											
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>知識</td> <td>講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>批判的考察</td> <td>議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>主体的学修</td> <td>議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>幅広い視座</td> <td>与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。</td> </tr> </tbody> </table>				No	観点	詳細	1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。	2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。	3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。	4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																									
No	観点	詳細																																										
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。																																										
2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。																																										
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。																																										
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>初回:オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。</td> <td></td> <td>美術館訪問</td> <td>各自で美術館見学、後日レポートを提出</td> </tr> </tbody> </table>				No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	初回:オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○			2.	①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)	○	小テストあり		3.	②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)	○	小テストあり		4.	③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題	○	小テストあり		5.	④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—	○	小テストあり		6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり		7.	●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。		美術館訪問	各自で美術館見学、後日レポートを提出
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																								
1.	初回:オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○																																										
2.	①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)	○	小テストあり																																									
3.	②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)	○	小テストあり																																									
4.	③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題	○	小テストあり																																									
5.	④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—	○	小テストあり																																									
6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり																																									
7.	●美術館・展覧会見学 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。		美術館訪問	各自で美術館見学、後日レポートを提出																																								
授業以外での学習にあたって	次の授業の準備として課題を出すこともあるので、その場合には予習してから授業にのぞむこと。中間テストは事前にテスト範囲を提示するので当日までに準備をし、また、レポートでは、課題にそった内容を各自準備し、期限までに提出のこと。提出期限をすぎたものは受領いたしません。また、本授業では、「授業計画」にあるように、(教員の引率ではなく)各自、美術館・展覧会訪問を行ってもらうため、「学外(教室外)」活動を含む授業であります。																																											
テキスト	授業中に適宜指示・配布する。(下記の「参考書」も参照のこと)																																											
参考書	授業中に適宜指示する。e-portfolio system上に参考文献表をアップロードしてありますので、各自参照のこと。また伊都中央図書館の「課題文献コーナー」の「芸術学入門」(青野)のコーナーに参考文献の一部を常時置いてありますので、参照のこと。																																											

授業資料	適宜配布するが、基本的には授業中に各自ノートを取ること。 授業内で用いた画像、資料などはコピーライトの関係で授業時間外には閲覧できないため、注意すること。(授業中に用いたパワーポイントは基本的にダウンロードなどはできません)。																																																																						
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 219 336 309">評価方法・観点</th> <th data-bbox="341 219 432 309">観点No.1</th> <th data-bbox="437 219 528 309">観点No.2</th> <th data-bbox="533 219 624 309">観点No.3</th> <th data-bbox="628 219 719 309">観点No.4</th> <th data-bbox="724 219 815 309">観点No.5</th> <th data-bbox="820 219 911 309">観点No.6</th> <th data-bbox="916 219 1007 309">観点No.7</th> <th data-bbox="1011 219 1102 309">観点No.8</th> <th data-bbox="1107 219 1246 309">備考(欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 315 336 450"></td> <td data-bbox="341 315 432 450">◎</td> <td data-bbox="437 315 528 450">◎</td> <td data-bbox="533 315 624 450">◎</td> <td data-bbox="628 315 719 450">◎</td> <td data-bbox="724 315 815 450"></td> <td data-bbox="820 315 911 450"></td> <td data-bbox="916 315 1007 450"></td> <td data-bbox="1011 315 1102 450"></td> <td data-bbox="1107 315 1246 450">およそ40(期末レポートの可能性もあり)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 456 336 591"></td> <td data-bbox="341 456 432 591">◎</td> <td data-bbox="437 456 528 591">◎</td> <td data-bbox="533 456 624 591">◎</td> <td data-bbox="628 456 719 591">○</td> <td data-bbox="724 456 815 591"></td> <td data-bbox="820 456 911 591"></td> <td data-bbox="916 456 1007 591"></td> <td data-bbox="1011 456 1102 591"></td> <td data-bbox="1107 456 1246 591">出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 598 336 732"></td> <td data-bbox="341 598 432 732">◎</td> <td data-bbox="437 598 528 732">◎</td> <td data-bbox="533 598 624 732">◎</td> <td data-bbox="628 598 719 732">◎</td> <td data-bbox="724 598 815 732"></td> <td data-bbox="820 598 911 732"></td> <td data-bbox="916 598 1007 732"></td> <td data-bbox="1011 598 1102 732"></td> <td data-bbox="1107 598 1246 732">およそ20(美術館レポート)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 739 336 873"></td> <td data-bbox="341 739 432 873"></td> <td data-bbox="437 739 528 873"></td> <td data-bbox="533 739 624 873"></td> <td data-bbox="628 739 719 873"></td> <td data-bbox="724 739 815 873"></td> <td data-bbox="820 739 911 873"></td> <td data-bbox="916 739 1007 873"></td> <td data-bbox="1011 739 1102 873"></td> <td data-bbox="1107 739 1246 873"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 880 336 1014"></td> <td data-bbox="341 880 432 1014"></td> <td data-bbox="437 880 528 1014">○</td> <td data-bbox="533 880 624 1014">○</td> <td data-bbox="628 880 719 1014">○</td> <td data-bbox="724 880 815 1014"></td> <td data-bbox="820 880 911 1014"></td> <td data-bbox="916 880 1007 1014"></td> <td data-bbox="1011 880 1102 1014"></td> <td data-bbox="1107 880 1246 1014">小テストと合わせておよそ10-20ほど</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1021 336 1055">中間テスト</td> <td data-bbox="341 1021 432 1055"></td> <td data-bbox="437 1021 528 1055"></td> <td data-bbox="533 1021 624 1055"></td> <td data-bbox="628 1021 719 1055"></td> <td data-bbox="724 1021 815 1055"></td> <td data-bbox="820 1021 911 1055"></td> <td data-bbox="916 1021 1007 1055"></td> <td data-bbox="1011 1021 1102 1055"></td> <td data-bbox="1107 1021 1246 1055">およそ30</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)		◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)		◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど		◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)													○	○	○					小テストと合わせておよそ10-20ほど	中間テスト									およそ30
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)																																																														
	◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)																																																														
	◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど																																																														
	◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)																																																														
		○	○	○					小テストと合わせておよそ10-20ほど																																																														
中間テスト									およそ30																																																														
成績評価基準に関わる補足事項	<p>芸術学入門は「絵を見てなんとなく感想を言う」ような授業ではなく、積極的に学問としての美術史とその方法論を学ぶことを求めます。成績評価はその主体的学修と批判的考察を重視いたします。授業内小テスト、中間テスト、美術館レポートを課し、期末にはレポート課題または教場試験を課します。</p> <p>注意1:) 中間テストおよび美術館レポートを課しますが、それを提出した学生にのみ、期末レポートの提出資格または期末試験の受験資格を与えます。</p> <p>注意2:) 「不正行為(カンニング、出欠に関する不正、レポートにおける典拠の不明確な「切り貼り」行為と剽窃、等)」は一度であっても単位習得を妨げる行為です。『基幹教育 履修要項』11頁の「不正受験行為・指示違反等について」を参照のこと。</p>																																																																						
ルーブリック	芸術学入門Aonoルーブリック.pdf																																																																						
学習相談	事前に予約のうえ随時行う。連絡先は授業中に指示。																																																																						
添付ファイル																																																																							
その他																																																																							
更新日付	2017-03-31 13:41:51.549																																																																						



シラバス参照



講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	西洋初期近代／北方絵画史
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 木曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	青野 純子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2304
その他 (自由記述欄)	

「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。

「初期近代北方ヨーロッパ絵画を中心とした芸術学入門」

絵画をどのように見て、いかに理解するのか。美術史研究の基礎である絵画の見方を「授業計画」であげたテーマに沿って学んでいく。授業中に取り上げる対象は初期近代(17世紀まで)のオランダ、ベルギー地方のヨーロッパ絵画を中心とする。年代ごとに作家・作品を扱うのではなく、絵画作品を目の前にしたときに立ち上がってくる諸々の問題をどうとらえ、分析・議論していくのか、そうした絵画との対話を出発点に考察を深めていく。

授業概要

In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their

PAGE TOP

	<p>meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.</p> <p>*****</p> <p>Introduction to Art Studies, with a special focus on Netherlandish painting of the early modern period.</p> <p>This course equips students with the fundamental skills and perspectives to understand Northern European art of the early modern period. Students learn how to look at and critically approach works of art in the cultural and social context in which they were created, viewed and evaluated. The course is designed to provide students with broad, humanistic knowledge and an analytic way of thinking, which serves a perfect preparation for advanced studies in a wide range of disciplines.</p>																																								
キーワード	西洋美術史、絵画史、美術史方法論、オランダ絵画																																								
履修条件等	特になし。ただ、趣味としての美術鑑賞ではなく、学問としての美術史を学ぶことを目的とするので、作品を批判的・総合的に理解し、自分なりの絵画の見方を積極的に模索したいという意欲のある学生を求める(下記「成績評価基準に関する補足事項」も必ず参照のこと)。ただし、受講希望者が教員が決める定員をこえる際には、その都度検討した上で、受講制限をすることになるので要注意。また、必ずパソコンを持参のこと。																																								
履修に必要な知識・能力	美術史に関する知識は問わないが、芸術に関心があり、絵画を見るのが好きだという態度が必須。																																								
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>知識</td> <td>講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>批判的考察</td> <td>議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>主体的学修</td> <td>議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>幅広い視座</td> <td>与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。</td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細	1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。	2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。	3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。	4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																									
No	観点	詳細																																							
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る。																																							
2.	批判的考察	議論の対象について、既存の観念にとらわれず、何が本質的に重要であるかを批判的に考察する。																																							
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方、考え方とは何かを積極的に模索し、示す。																																							
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する。																																							
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>初回：オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界</td> <td>○</td> <td>小テストあり</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>●美術館・展覧会見学</td> <td></td> <td>美</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	初回：オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○			2.	①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)	○	小テストあり		3.	②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)	○	小テストあり		4.	③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題	○	小テストあり		5.	④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—	○	小テストあり		6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり			●美術館・展覧会見学		美	
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																					
1.	初回：オリエンテーション 以下の①～⑤のテーマをおよそ各2-3回の講義で扱う。順番、テーマごとの授業回数には変更もあり。	○																																							
2.	①絵画の様式とは何か(作品記述、様式分析、構図分析、遠近法)	○	小テストあり																																						
3.	②絵画の意味解釈とは何か(イコノロジーとその限界)	○	小テストあり																																						
4.	③絵画が本物であること(authenticity)とは何か(1):複製、真贋、鑑識眼(connoisseurship)の問題	○	小テストあり																																						
5.	④絵画が本物であること(authenticity)とは何か(2):「物」としての絵画—絵画の素材に関する科学的調査—	○	小テストあり																																						
6.	⑤絵画を考察する方法論の可能性と限界	○	小テストあり																																						
	●美術館・展覧会見学		美																																						

	<p>7. 絵画分析を実際に自ら学ぶために、授業1回分をあてる形で、指定した美術館・展覧会を各自見学、報告レポートの提出を求める。時期・詳細に関しては授業中に指示する。</p>	<p>美術館訪問</p>	<p>各自で美術館見学、後日レポートを提出</p>																																																																												
<p>授業以外での学習にあたって</p>	<p>次の授業の準備として課題を出すこともあるので、その場合には予習してから授業にのぞむこと。</p> <p>中間テストは事前にテスト範囲を提示するので当日までに準備をし、また、レポートでは、課題にそった内容を各自準備し、期限までに提出のこと。提出期限をすぎたものは受領いたしません。</p> <p>また、本授業では、「授業計画」にあるように、(教員の引率ではなく)各自、美術館・展覧会訪問を行ってもらうため、「学外(教室外)」活動を含む授業であります。</p>																																																																														
<p>テキスト</p>	<p>授業中に適宜指示・配布する。(下記の「参考書」も参照のこと)</p>																																																																														
<p>参考書</p>	<p>授業中に適宜指示する。e-portfolio system上に参考文献表をアップロードしてありますので、各自参照のこと。また伊都中央図書館の「課題文献コーナー」の「芸術学入門」(青野)のコーナーに参考文献の一部を常時置いてありますので、参照のこと。</p>																																																																														
<p>授業資料</p>	<p>適宜配布するが、基本的には授業中に各自ノートを取ること。</p> <p>授業内で用いた画像、資料などはコピーライトの関係で授業時間外には閲覧できないため、注意すること。(授業中に用いたパワーポイントは基本的にダウンロードなどはできません)。</p>																																																																														
<p>成績評価</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考(欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>およそ40(期末レポートの可能性もあり)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>およそ20(美術館レポート)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>小テストと合わせておよそ10-20ほど</td> </tr> <tr> <td>中間テスト</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>およそ30</td> </tr> </tbody> </table>									評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)		◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)		◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど		◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)														○	○	○				小テストと合わせておよそ10-20ほど	中間テスト									およそ30
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)																																																																						
	◎	◎	◎	◎					およそ40(期末レポートの可能性もあり)																																																																						
	◎	◎	◎	○					出席(授業参加)と合わせておよそ10-20ほど																																																																						
	◎	◎	◎	◎					およそ20(美術館レポート)																																																																						
			○	○	○				小テストと合わせておよそ10-20ほど																																																																						
中間テスト									およそ30																																																																						
<p>成績評価基準に関わる補足事項</p>	<p>芸術学入門は「絵を見てなんとなく感想を言う」ような授業ではなく、積極的に学問としての美術史とその方法論を学ぶことを求めます。成績評価はその主体的学修と批判的考察を重視いたします。授業内小テスト、中間テスト、美術館レポートを課し、期末にはレポート課題または教場試験を課します。</p> <p>注意1:) 中間テストおよび美術館レポートを課しますが、それを提出した学生にのみ、期末レポートの提出資格または期末試験の受験資格を与えます。</p> <p>注意2:) 「不正行為(カンニング、出欠に関する不正、レポートにおける典拠の不明確な「切り貼り」行為と剽窃、等)」は一度であっても単位習得を妨げる行為です。『基幹教育 履修要項』11頁の「不正受験行為・指示違反等について」を参照のこと。</p>																																																																														

ループリック	芸術学入門Aonoループリック.pdf
学習相談	事前に予約のうえ随時行う。連絡先は授業中に指示。
添付ファイル	
その他	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。 http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html
更新日付	2017-09-29 15:13:08.008



シラバス参照



講義科目名	芸術学入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1151J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 火曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	米村 典子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2304
その他 (自由記述欄)	この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトを参照してください。 http://www.euji-kyushu.com/jp/home/index.html

授業概要	<p>「芸術学入門」は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員がそれぞれの専門領域に基づいてその研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というところか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かし、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を提供することになる。</p> <p>*****</p> <p>この授業では、西洋の芸術作品を主たる対象として講義を進めるが、特定の時代や芸術家や作品について論じるのではない。教室では、世界各地に散らばった様々の時代の芸術作品が次々とほぼ同じ大きさで映写される。また、本や雑誌などでは印刷された画像が、コンピュータ上ではデジタルな画像が、作品として示される。そのために、われわれは絵画や彫刻が「モノ」であることを忘れがちである。「誰が描いたのか」、「何が描かれているのか」ではなく、「絵画とは何か」、「彫刻とは何か」を物質的な成り立ちや作品を取り巻く環境などから考察していくことで、芸術に関する理解を深めることを目指す。</p> <p>In this course, Kyushu University faculty present research findings from their areas of specialty and provide lectures on the appreciation, comprehension and meaning of art, focusing on the arts conceived and nurtured throughout world history. The word "art" tends to invoke a world somewhat hobbyist in nature, but in this course we deeply examine how humankind conceived and accepted the world of art as the rich fruit of human culture. Art is indispensable to human life, and having one's heart moved by artistic masterpieces and pondering their meaning provides a foundation for comprehending the values of various historical periods and regions, and broadens interesting a diverse scholarly world.</p>
------	--

PAGE TOP

キーワード	絵画, 彫刻, 写真, 美術館																																																																																									
履修条件等	特別な条件はないが, できるだけ多くの視覚芸術作品に接するよう心がけること.																																																																																									
履修に必要な知識・能力	西洋美術についての知識は特に必要とはしない. しかし, 視覚芸術に関心があることは必須条件である. この授業はEU研究ディプロマプログラムの科目でもあり, 西洋とくにEUに関心がある人に適している.																																																																																									
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>知識</td> <td>講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>批判的考察</td> <td>議論の対象について, 既存の観念にとらわれず, 何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>主体的学修</td> <td>議論の対象について自らの見方, 考え方とは何かを積極的に模索し, 示す.</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>幅広い視座</td> <td>与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.</td> </tr> </tbody> </table>										No	観点	詳細	1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.	2.	批判的考察	議論の対象について, 既存の観念にとらわれず, 何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.	3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方, 考え方とは何かを積極的に模索し, 示す.	4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.																																																																	
No	観点	詳細																																																																																								
1.	知識	講義やテスト・予習・復習等での課題への取り組みを通して新たな知識を得る.																																																																																								
2.	批判的考察	議論の対象について, 既存の観念にとらわれず, 何が本質的に重要であるかを批判的に考察する.																																																																																								
3.	主体的学修	議論の対象について自らの見方, 考え方とは何かを積極的に模索し, 示す.																																																																																								
4.	幅広い視座	与えられた課題をより広い社会的・文化的文脈で捉え思考する.																																																																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>進度・内容・行動目標</th> <th>講義</th> <th>演習・その他</th> <th>授業時間 外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する *以下の授業計画は変更の可能性がある.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>モノとしての絵画(1):支持体, 絵の具, 顔料, メディウム</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>モノとしての絵画(2):タブロー, テクノロジーの発展と芸術</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>モノとしての彫刻: 塑像, 鑄造, ロダン, ブランクーシ</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>オリジナルと複製: 銅版画, 石版画, シルクスクリーン</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>美術館見学(1): 見学とレポート提出にむけて, 展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>美術館見学(2): 授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>カメラと写真: カメラ・オブスクーラ, 写真の発明, ダゲレオタイプ, タルボット</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>写真と絵画: ドガ, マイブリッジ, ピクトリアリズム, ストレートフォト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>「開いた窓」としての絵画: フレーム, 遠近法</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>フレームと絵画: 額縁, 印象派</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>モノとなる彫刻: 台座をおりる彫刻, ピカソ, ウォーホル *小テスト課題と実施要領を発表する.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>モノとなる絵画: 外れる額縁, キュビズム, コラージュ, 抽象絵画</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>小テスト: 12回目の授業で発表した課題について, 小テストを実施する.</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>授業のまとめ, 小テストの解説・コメントなど</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間 外学習	1.	オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する *以下の授業計画は変更の可能性がある.	○			2.	モノとしての絵画(1):支持体, 絵の具, 顔料, メディウム	○			3.	モノとしての絵画(2):タブロー, テクノロジーの発展と芸術	○			4.	モノとしての彫刻: 塑像, 鑄造, ロダン, ブランクーシ	○			5.	オリジナルと複製: 銅版画, 石版画, シルクスクリーン	○			6.	美術館見学(1): 見学とレポート提出にむけて, 展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.	○			7.	美術館見学(2): 授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.				8.	カメラと写真: カメラ・オブスクーラ, 写真の発明, ダゲレオタイプ, タルボット	○			9.	写真と絵画: ドガ, マイブリッジ, ピクトリアリズム, ストレートフォト	○			10.	「開いた窓」としての絵画: フレーム, 遠近法	○			11.	フレームと絵画: 額縁, 印象派	○			12.	モノとなる彫刻: 台座をおりる彫刻, ピカソ, ウォーホル *小テスト課題と実施要領を発表する.	○			13.	モノとなる絵画: 外れる額縁, キュビズム, コラージュ, 抽象絵画	○			14.	小テスト: 12回目の授業で発表した課題について, 小テストを実施する.	○			15.	授業のまとめ, 小テストの解説・コメントなど	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間 外学習																																																																																						
1.	オリエンテーション 授業計画の詳細を説明する *以下の授業計画は変更の可能性がある.	○																																																																																								
2.	モノとしての絵画(1):支持体, 絵の具, 顔料, メディウム	○																																																																																								
3.	モノとしての絵画(2):タブロー, テクノロジーの発展と芸術	○																																																																																								
4.	モノとしての彫刻: 塑像, 鑄造, ロダン, ブランクーシ	○																																																																																								
5.	オリジナルと複製: 銅版画, 石版画, シルクスクリーン	○																																																																																								
6.	美術館見学(1): 見学とレポート提出にむけて, 展覧会・美術館についての解説とレポートの書き方を講義する.	○																																																																																								
7.	美術館見学(2): 授業で指定した展覧会・美術館を各自で見学する. 見学に基づくレポート提出を求める.																																																																																									
8.	カメラと写真: カメラ・オブスクーラ, 写真の発明, ダゲレオタイプ, タルボット	○																																																																																								
9.	写真と絵画: ドガ, マイブリッジ, ピクトリアリズム, ストレートフォト	○																																																																																								
10.	「開いた窓」としての絵画: フレーム, 遠近法	○																																																																																								
11.	フレームと絵画: 額縁, 印象派	○																																																																																								
12.	モノとなる彫刻: 台座をおりる彫刻, ピカソ, ウォーホル *小テスト課題と実施要領を発表する.	○																																																																																								
13.	モノとなる絵画: 外れる額縁, キュビズム, コラージュ, 抽象絵画	○																																																																																								
14.	小テスト: 12回目の授業で発表した課題について, 小テストを実施する.	○																																																																																								
15.	授業のまとめ, 小テストの解説・コメントなど	○																																																																																								
授業以外での学習にあたって																																																																																										
テキスト	なし.																																																																																									
参考書	授業中に配布するプリントで紹介する.																																																																																									
授業資料	毎回プリントを配布する.																																																																																									
	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件)																																																																																

成績評価									割合)	
		◎	◎	◎	◎					40%
		◎	◎	◎	◎					30%
		◎	◎	◎	◎					20%
										10%
成績評価基準 に関わる補足 事項										
ループリック	芸術学入門のループリック.pdf									
学習相談	適宜応じる。(要予約)									
添付ファイル										
その他	教室の収容人数を超えた場合、受講制限を行う可能性がある。									
更新日付	2017-03-24 00:25:15.248									



シラバス参照



講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	知識の理論
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	前期
曜日時限	前期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	新島 龍美
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>(共通部分)この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行なう講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいのが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。</p> <p>(本授業の進め方)「知る」とは何か。この問いをめぐって、出来るだけ基礎的な考察を試みる。取り扱われる可能性のある主題は、懐疑主義、信念、真理、正当化、合理性、ゲティア問題、条件説、基礎づけ主義、斉合説、内在主義と外在主義、知識の諸形態(知覚、記憶、帰納)など。</p> <p>This lecture considers the basic question of 'What is knowledge?'. Possible topics may include scepticism, belief, truth, justification, Gettier-problem, foundationalism, etc.</p>
キーワード	知識、知る・知っている、プラトン、ゲティア
履修条件等	<ol style="list-style-type: none"> 履修者は、上記の主題について、自分で思考する積極的な姿勢が求められる。 (公用掲示板の掲示にもあるように)この授業シラバスをプリント・アウトしたものを、第一回目の授業に出席の際、必ず持参すること(履修の必須条件。印刷については、下記「その他」の項目を参照)。 「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」へログインし、当該科目へ「自己登録」すること。詳細は、下記「その他」の項目を参照。 授業中にインターネットを利用することがあるので、各自持参したパソコンが教室内から無線LANを通じてインターネットに接続できる設定になっていることを確認しておくこと。 遅刻・早退・私語は認めない。

履修に必要な知識・能力	配布資料に基づき、講義形式で進める。重要事項や注意事項等は、受講者が自らの判断で積極的に書き留めること。 第一回目にレポートを作成してもらうので、受講希望者は必ず出席のこと。																																																					
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 235 295 280">No</th> <th data-bbox="295 235 399 280">観点</th> <th data-bbox="399 235 1260 280">詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 280 295 358">1.</td> <td data-bbox="295 280 399 358">思考力</td> <td data-bbox="399 280 1260 358">日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 358 295 414">2.</td> <td data-bbox="295 358 399 414">表現力</td> <td data-bbox="399 358 1260 414">自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 414 295 481">3.</td> <td data-bbox="295 414 399 481">C:汎用的技能</td> <td data-bbox="399 414 1260 481"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 481 295 560">4.</td> <td data-bbox="295 481 399 560">D:態度・志向性</td> <td data-bbox="399 481 1260 560"></td> </tr> </tbody> </table>				No	観点	詳細	1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。	2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。	3.	C:汎用的技能		4.	D:態度・志向性																																				
No	観点	詳細																																																				
1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。																																																				
2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。																																																				
3.	C:汎用的技能																																																					
4.	D:態度・志向性																																																					
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 593 295 638">No</th> <th data-bbox="295 593 869 638">進度・内容・行動目標</th> <th data-bbox="869 593 917 638">講義</th> <th data-bbox="917 593 1157 638">演習・その他</th> <th data-bbox="1157 593 1260 638">授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 638 295 1142">1.</td> <td data-bbox="295 638 869 1142"> <p>ガイダンスとレポート作成; <レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているものを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)~(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いしないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p> </td> <td data-bbox="869 638 917 1142"></td> <td data-bbox="917 638 1157 1142">レポート作成</td> <td data-bbox="1157 638 1260 1142">レポートの課題について予め考えておくこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1142 295 1288">2.</td> <td data-bbox="295 1142 869 1288">知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)</td> <td data-bbox="869 1142 917 1288">○</td> <td data-bbox="917 1142 1157 1288">第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。</td> <td data-bbox="1157 1142 1260 1288"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1288 295 1332">3.</td> <td data-bbox="295 1288 869 1332">知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)</td> <td data-bbox="869 1288 917 1332">○</td> <td data-bbox="917 1288 1157 1332"></td> <td data-bbox="1157 1288 1260 1332"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1332 295 1377">4.</td> <td data-bbox="295 1332 869 1377">知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇</td> <td data-bbox="869 1332 917 1377">○</td> <td data-bbox="917 1332 1157 1377"></td> <td data-bbox="1157 1332 1260 1377"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1377 295 1422">5.</td> <td data-bbox="295 1377 869 1422">知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)</td> <td data-bbox="869 1377 917 1422">○</td> <td data-bbox="917 1377 1157 1422"></td> <td data-bbox="1157 1377 1260 1422"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1422 295 1467">6.</td> <td data-bbox="295 1422 869 1467">知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)</td> <td data-bbox="869 1422 917 1467">○</td> <td data-bbox="917 1422 1157 1467"></td> <td data-bbox="1157 1422 1260 1467"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1467 295 1512">7.</td> <td data-bbox="295 1467 869 1512">ゲティア問題の展開と再検討(1)</td> <td data-bbox="869 1467 917 1512">○</td> <td data-bbox="917 1467 1157 1512"></td> <td data-bbox="1157 1467 1260 1512"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1512 295 1556">8.</td> <td data-bbox="295 1512 869 1556">ゲティア問題の展開と再検討(2)</td> <td data-bbox="869 1512 917 1556">○</td> <td data-bbox="917 1512 1157 1556"></td> <td data-bbox="1157 1512 1260 1556"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1556 295 1601">9.</td> <td data-bbox="295 1556 869 1601">ゲティア問題の展開と再検討(3)</td> <td data-bbox="869 1556 917 1601">○</td> <td data-bbox="917 1556 1157 1601"></td> <td data-bbox="1157 1556 1260 1601"></td> </tr> </tbody> </table>				No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	<p>ガイダンスとレポート作成; <レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているものを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)~(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いしないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。	2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。		3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○			4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○			5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○			6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○			7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○			8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○			9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																		
1.	<p>ガイダンスとレポート作成; <レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているものを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)~(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いしないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。																																																		
2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。																																																			
3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○																																																				
4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○																																																				
5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○																																																				
6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○																																																				
7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○																																																				
8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○																																																				
9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○																																																				
授業以外での学習にあたって																																																						
テキスト	教科書は使用せず、随時資料を配付する。配付資料は毎回忘れずに持参すること。(配付資料は再配布しない。)																																																					
参考書	<p>講義の中でも適宜指示するが、まずは、次のものを挙げておく(いずれも図書館で見ることが出来る)。 戸田山 和久『知識の理論』、産業図書、2002年 黒田 亘『経験と言語』、東京大学出版会、1975年 黒田 亘『知識と行為』、東京大学出版会、1983年 R. M. チザム『知識の理論』、上枝美典訳、世界思想社、2003年</p> <p>配布資料等に記載の参考資料の殆どは、図書館で読むことが出来る。受講者は図書館を大いに利用して、自ら積極的に学習を進めることが期待される。</p>																																																					
授業資料																																																						

成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠 格 条 件 ・ 割 合)
		◎	◎							
	◎	◎								30
										15
成績評価基準 に関わる補足 事項	<p>1. 成績評価は、出席点、第一回目の授業中に作成するレポート、及び、授業時間中に数回行われる論述試験によって行われる。</p> <p>2. 論述試験では、講義中に提示された内容に関する基本的な理解と、それに基づいた応用的思考力を評価の対象とする。</p> <p>3. 病欠(要略式診断書)のほか正当な理由のない場合、上記の方法以外の追試験(eg. レポート提出)等は行わない。</p>									
ルーブリック										
学習相談	講義内容に関する質問は、講義時間中もしくは講義時間終了後に対応する。									
添付ファイル										
その他	<p>このシラバスの印刷を伊都キャンパス内で行いたい場合は、シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、そのファイルを学内設置のプリンタ付きパソコンまで持参して印刷することになります。プリンタ付きパソコンの配置場所は、センター1号館1階東側のSALC(旧情報学習室)、センター2号館4階の嚶鳴天空広場(Q-Commons)、伊都図書館2階などです(有料)。(これらのプリンタでは、ネットワーク等からインターネット上の画面を直接印刷は出来ません。シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、プリンタまで持参して下さい。)</p> <p><自己登録方法>九州大学のHPから「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」にログインします。1.「コースを検索する」からコースを見つけ、クリックします。2. 登録オプションが表示されるので、授業名を確認し、「私を受講登録する」をクリックします。</p> <p>本科目は、EU研究ディプロマ・プログラム(EU-DPs)の入門科目です。本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。同プログラムについて、詳しくはEUIJ-KyushuのWebページ(http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html)内の「教育プログラム」をご参照ください。</p> <p>なお、この「哲学・思想入門」は、本年度はこの授業を含め、複数の担当教員によって開講されます。講義題目と授業内容(アプローチの方法)は各担当教員の専門分野に沿ってそれぞれ異なっています。どの担当教員の授業を履修するかは、個々によく考えて選択してください。</p>									
更新日付	2017-03-17 17:30:26.727									



シラバス参照



講義科目名	哲学・思想入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1111J
講義題目	知識の理論
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 2時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	新島 龍美
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>(共通部分)この授業は、世界各地域・時代の哲学・思想について、九州大学の教員がそれぞれの西洋哲学・倫理学・インド哲学史・中国哲学史・宗教学等の専門を踏まえて行なう講義である。哲学・思想研究は、世界や人生の原理を探求し、世界にありとあらゆる物事(モノ・コト)をその原理から体系的に理解しようとする学問である。一見難解でとっつきにくいだが、第一線の研究者である担当教員が高度な内容を平易に講義する。この授業を通して、世界や人生についてより深く思索するヒントを数多く得られるであろう。</p> <p>(本授業の進め方)「知る」とは何か。この問いをめぐって、出来るだけ基礎的な考察を試みる。取り扱われる可能性のある主題は、懐疑主義、信念、真理、正当化、合理性、ゲティア問題、条件説、基礎づけ主義、斉合説、内在主義と外在主義、知識の諸形態(知覚、記憶、帰納)など。</p> <p>This lecture considers the basic question of 'What is knowledge?'. Possible topics may include scepticism, belief, truth, justification, Gettier-problem, foundationalism, etc.</p>
キーワード	知識、知る・知っている、プラトン、ゲティア
履修条件等	<ol style="list-style-type: none"> 履修者は、上記の主題について、自分で思考する積極的な姿勢が求められる。 (公用掲示板の掲示にもあるように)この授業シラバスをプリント・アウトしたものを、第一回目の授業に出席の際、必ず持参すること(履修の必須条件。印刷については、下記「その他」の項目を参照)。 「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」へログインし、当該科目へ「自己登録」すること。詳細は、下記「その他」の項目を参照。 授業中にインターネットを利用することがあるので、各自持参したパソコンが教室内から無線LANを通じてインターネットに接続できる設定になっていることを確認しておくこと。 遅刻・早退・私語は認めない。

履修に必要な知識・能力	配布資料に基づき、講義形式で進める。重要事項や注意事項等は、受講者が自らの判断で積極的に書き留めること。 第一回目にレポートを作成してもらうので、受講希望者は必ず出席のこと。																																																					
到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 235 295 280">No</th> <th data-bbox="295 235 399 280">観点</th> <th data-bbox="399 235 1260 280">詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 302 295 347">1.</td> <td data-bbox="295 302 399 347">思考力</td> <td data-bbox="399 302 1260 347">日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 369 295 414">2.</td> <td data-bbox="295 369 399 414">表現力</td> <td data-bbox="399 369 1260 414">自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 436 295 481">3.</td> <td data-bbox="295 436 399 481">C:汎用的技能</td> <td data-bbox="399 436 1260 481"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 504 295 548">4.</td> <td data-bbox="295 504 399 548">D:態度・志向性</td> <td data-bbox="399 504 1260 548"></td> </tr> </tbody> </table>				No	観点	詳細	1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。	2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。	3.	C:汎用的技能		4.	D:態度・志向性																																				
No	観点	詳細																																																				
1.	思考力	日常生活の中で当然のこと、当たり前のこととして前提されている事柄を、改めてその「何であるか」を問う知的活動である「哲学」的思考に触れる。																																																				
2.	表現力	自分の考えを出来るだけ明瞭に表現し、他人に正確に伝える力を身につける。																																																				
3.	C:汎用的技能																																																					
4.	D:態度・志向性																																																					
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="252 604 295 649">No</th> <th data-bbox="295 604 869 649">進度・内容・行動目標</th> <th data-bbox="869 604 917 649">講義</th> <th data-bbox="917 604 1157 649">演習・その他</th> <th data-bbox="1157 604 1260 649">授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="252 683 295 1142">1.</td> <td data-bbox="295 683 869 1142"> <p>ガイダンスとレポート作成; <レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているものを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)~(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いしないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p> </td> <td data-bbox="869 683 917 1142"></td> <td data-bbox="917 683 1157 1142">レポート作成</td> <td data-bbox="1157 683 1260 1142">レポートの課題について予め考えておくこと。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1164 295 1209">2.</td> <td data-bbox="295 1164 869 1209">知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)</td> <td data-bbox="869 1164 917 1209">○</td> <td data-bbox="917 1164 1157 1209">第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。</td> <td data-bbox="1157 1164 1260 1209"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1232 295 1276">3.</td> <td data-bbox="295 1232 869 1276">知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)</td> <td data-bbox="869 1232 917 1276">○</td> <td data-bbox="917 1232 1157 1276"></td> <td data-bbox="1157 1232 1260 1276"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1299 295 1344">4.</td> <td data-bbox="295 1299 869 1344">知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇</td> <td data-bbox="869 1299 917 1344">○</td> <td data-bbox="917 1299 1157 1344"></td> <td data-bbox="1157 1299 1260 1344"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1366 295 1411">5.</td> <td data-bbox="295 1366 869 1411">知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)</td> <td data-bbox="869 1366 917 1411">○</td> <td data-bbox="917 1366 1157 1411"></td> <td data-bbox="1157 1366 1260 1411"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1433 295 1478">6.</td> <td data-bbox="295 1433 869 1478">知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)</td> <td data-bbox="869 1433 917 1478">○</td> <td data-bbox="917 1433 1157 1478"></td> <td data-bbox="1157 1433 1260 1478"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1500 295 1545">7.</td> <td data-bbox="295 1500 869 1545">ゲティア問題の展開と再検討(1)</td> <td data-bbox="869 1500 917 1545">○</td> <td data-bbox="917 1500 1157 1545"></td> <td data-bbox="1157 1500 1260 1545"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1568 295 1612">8.</td> <td data-bbox="295 1568 869 1612">ゲティア問題の展開と再検討(2)</td> <td data-bbox="869 1568 917 1612">○</td> <td data-bbox="917 1568 1157 1612"></td> <td data-bbox="1157 1568 1260 1612"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="252 1635 295 1680">9.</td> <td data-bbox="295 1635 869 1680">ゲティア問題の展開と再検討(3)</td> <td data-bbox="869 1635 917 1680">○</td> <td data-bbox="917 1635 1157 1680"></td> <td data-bbox="1157 1635 1260 1680"></td> </tr> </tbody> </table>				No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	1.	<p>ガイダンスとレポート作成; <レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているものを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)~(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いしないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。	2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。		3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○			4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○			5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○			6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○			7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○			8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○			9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○		
No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																		
1.	<p>ガイダンスとレポート作成; <レポート作成>以下の五つの問いに答えなさい(実際に第一回目の授業中に書くことになるので、予め考えておくこと)。 Q1:あなたは何かを知っていますか。あなたが知っているものを10個挙げなさい((1)~(10)の番号を振ること)。その際、出来るだけ多くの種類のを挙げると共に、出来るだけ正確な表現を用いるよう心掛けなさい。 Q2:あなた自身は知らない・知っていないが、あなた以外の人が知っているもの・ことを10個挙げなさい((11)~(20)の番号を振ること)。(その際の注意事項は、Q1と同様。) Q3:Q1とQ2で挙げられた事例を眺めて、それぞれについて、それを貴方(もしくは貴方以外の人)が知っていると言える「理由・根拠」を考えなさい。Q1の事例から5つ、Q2の事例から5つを選びなさい(上記(1)~(20)の番号を付記すること)。 Q4:「これこれを知っている」ということを、その内実を変えることなく、「知る・知っている」や「知識」という言葉を用いしないで、表現してみなさい。 Q5:アリストテレス曰く、「全ての人間は、生まれながらにして、知ることを欲する。」このアリストテレスの主張は正しいと思いますか。誤っていると思いますか。あなたの考えを、そう考える根拠と併せて書きなさい。</p>		レポート作成	レポートの課題について予め考えておくこと。																																																		
2.	知識論への導入(1);作成レポートの分析(1)	○	第二週以降の予定は、あくまでも予定であり、履修者数や進捗状況によって適宜変更されることがある。																																																			
3.	知識論への導入(2);作成レポートの分析(2)	○																																																				
4.	知識論の源流(1);プラトン『メノン』篇	○																																																				
5.	知識論の源流(2);プラトン『テアイテトス』篇(1)	○																																																				
6.	知識論の源流(3);プラトン『テアイテトス』篇(2)	○																																																				
7.	ゲティア問題の展開と再検討(1)	○																																																				
8.	ゲティア問題の展開と再検討(2)	○																																																				
9.	ゲティア問題の展開と再検討(3)	○																																																				
授業以外での学習にあたって																																																						
テキスト	教科書は使用せず、随時資料を配付する。配付資料は毎回忘れずに持参すること。(配付資料は再配布しない。)																																																					
参考書	<p>講義の中でも適宜指示するが、まずは、次のものを挙げておく(いずれも図書館で見ることが出来る)。 戸田山 和久『知識の理論』、産業図書、2002年 黒田 亘『経験と言語』、東京大学出版会、1975年 黒田 亘『知識と行為』、東京大学出版会、1983年 R. M. チザム『知識の理論』、上枝美典訳、世界思想社、2003年</p> <p>配布資料等に記載の参考資料の殆どは、図書館で読むことが出来る。受講者は図書館を大いに利用して、自ら積極的に学習を進めることが期待される。</p>																																																					
授業資料																																																						

	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠条件・割合)
	成績評価		◎	◎						
		◎	◎							30
										15
成績評価基準に関わる補足事項	<p>1. 成績評価は、出席点、第一回目の授業中に作成するレポート、及び、授業時間中に数回行われる論述試験によって行われる。</p> <p>2. 論述試験では、講義中に提示された内容に関する基本的な理解と、それに基づいた応用的思考力を評価の対象とする。</p> <p>3. 病欠(要略式診断書)そのほか正当な理由のない場合、上記の方法以外の追試験(eg. レポート提出)等は行わない。</p>									
ルーブリック										
学習相談	講義内容に関する質問は、講義時間中もしくは講義時間終了後に対応する。									
添付ファイル										
その他	<p>このシラバスの印刷を伊都キャンパス内で行いたい場合は、シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、そのファイルを学内設置のプリンタ付きパソコンまで持参して印刷することになります。プリンタ付きパソコンの配置場所は、センター1号館1階東側のSALC(旧情報学習室)、センター2号館4階の囀鳴天空広場(Q-Commons)、伊都図書館2階などです(有料)。(これらのプリンタでは、ネットワーク等からインターネット上の画面を直接印刷は出来ません。シラバスをWordファイルの形にしたものをUSB等に保存した上で、プリンタまで持参して下さい。)</p> <p><自己登録方法>九州大学のHPから「九州大学e-ラーニングシステム Moodle」にログインします。1.「コースを検索する」からコースを見つけ、クリックします。2. 登録オプションが表示されるので、授業名を確認し、「私を受講登録する」をクリックします。</p> <p>本科目は、EU研究ディプロマ・プログラム(EU-DPs)の入門科目です。本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。同プログラムについて、詳しくはEUIJ-KyushuのWebページ(http://www.euij-kyushu.com/jp/home/index.html)内の「教育プログラム」をご参照ください。</p> <p>なお、この「哲学・思想入門」は、本年度はこの授業を含め、複数の担当教員によって開講されます。講義題目と授業内容(アプローチの方法)は各担当教員の専門分野に沿ってそれぞれ異なっています。どの担当教員の授業を履修するかは、個々によく考えて選択してください。</p>									
更新日付	2017-03-17 17:36:24.11									



シラバス参照

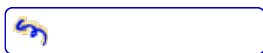


講義科目名	経済史入門
科目ナンバリングコード	KED-HSS1521J
講義題目	
授業科目区分	文系ディシプリン科目 Subjects in Humanities and Social Science
開講年度	2017
開講学期	後期
曜日時限	後期 水曜日 1時限
必修選択	
単位数	2.0
担当教員	藤井 美男
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2407
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。</p> <p>経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とを通じて、我々が現在抱える様々な問題を、経済の歴史的歩みを辿ることによって考察する。経済学部の専攻科目【経済史】を担当する各教員が、九州大学に入学してきた一年生諸君に、様々な個別経済現象との「歴史的対話」を通じて、我々が今どのような人類史の地平に立っているのか、考える契機を提供することがこの授業の主目的である。</p> <p>In the 21st century, new difficulties came to face us, such as the gap between the North and the South in the World, that between rich and poor even within a developed country, and worldwide environmental problems, etc., but it is not easy to find the reason and to arrive at the solution of them. The main purpose of this course is to offer you some opportunities, by lecture on the European Economic History and/or on the Japanese Economic History, to be able to understand how the present problems arose in the course of human history, and to consider by yourself on what historical stage we are standing.</p>
キーワード	西洋経済史、世界経済史、グローバル・ヒストリー
履修条件等	特になし。
履修に必要な	高等学校までの「世界史」に関する基礎知識があると理解が容易となる講義である。また、社会・経済的事象の原

知識・能力	因と結果に関する関係を読みほぐし能力や、自ら考えたことを、正確な文章にする能力が求められる。				
到達目標	No	観点	詳細		
	1.	A:知識・理解	経済史の史実を理解し、歴史的現象の相互関連を必要な用語を用いて説明できる。		
	2.	B:専門的 技能			
	3.	C:汎用的技 能	人間の経済的歴史を史実に基づいて的確に説明でき、自己の見解を明瞭に述べる ことができる。		
	4.	D:態度・志向 性	経済の史的現象を深く洞察することによって、現代的問題関心を深めることができる。		
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	導入部(第1回) *オリエンテーション 授業の進め方、資料入手の方法などの説明 *キックオフレクチャー 「経済史」とは何か、の説明	○		
	2.	第I部(第2回～第3回) 古代の世界経済 ～経済的営みと成長の開始～	○		
	3.	第I部(第2回～第3回) 古代の世界経済 ～経済的営みと成長の開始～	○		
	4.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	5.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	6.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	7.	第II部(第4回～第7回) 中世の世界経済 ～ヨーロッパ最初の統一国家と経済成長～	○		
	8.	第8回 中間小テスト 30分程度の小テストを行う	○		
	9.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	10.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	11.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	12.	第III部(第9回～第12回) 近世の世界経済～近代化の進展～	○		
	13.	第IV部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
	14.	第IV部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○		
15.	第IV部(第13回～第15回) 近代の世界経済～グローバル化の開始～	○			
授業以外での 学習にあたって	事前にパワーポイントによるスライド資料を配信するので、予習と復習を十分にすることができる。				
テキスト	特に定めない。パワーポイントを中心とした講義とする。				
	(1)明石和康『ヨーロッパがわかる－起源から統合への道のり－』(岩波ジュニア新書)・・・平易な入門書。(2)奥				

参考書	西孝至・鳩澤歩(他)『西洋経済史』(有斐閣アルマ)・・・西洋経済史の基礎的テキスト。(3)金井雄一・中西聡(他)『世界経済の歴史ーグローバル経済史入門ー』(名古屋大学出版会)・・・上級向けテキスト																														
授業資料	パワーポイント資料を事前に配信。下記のURLから各自ダウンロードすること。ただし、詳細は初回授業中に説明する。特に初回はPCを持参すること。 http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm																														
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・観点</th> <th>観点No.1</th> <th>観点No.2</th> <th>観点No.3</th> <th>観点No.4</th> <th>観点No.5</th> <th>観点No.6</th> <th>観点No.7</th> <th>観点No.8</th> <th>備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)		◎		◎	◎							○		○	○					
評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考 (欠格条件・割合)																						
	◎		◎	◎																											
	○		○	○																											
成績評価基準に関わる補足事項																															
ルーブリック	後期2017(H29)年度経済史入門ルーブリック.pdf																														
学習相談	随時受付。事前にメールで予約のこと。 fujii@econ.kyushu-u.ac.jp																														
添付ファイル																															
その他	授業中は事前の配信資料以外にノート筆記を義務付けるので、受講に当たってはノート筆記の準備を常にしておくこと。なお、本講義は経済学部生にとっての「推奨科目」のため、受講希望者が教室の収容数を超える場合、他学部生に対して受講制限を設ける場合がある。この科目は『学部EU研究ディプロマプログラム(学部EU-DPs)』科目としても開講するものである。 【EU-DPs 科目分類】 (B)歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)に開放されています。 http://www.euii-kyushu.com/jp/home/index.html 本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。」																														
更新日付	2017-03-07 17:25:52.526																														



シラバス参照



講義科目名	大学とは何か
科目ナンバリングコード	KED-GES1114J
講義題目	—大学の歴史を中心に—
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	吉岡 斉 折田 悦郎 藤岡 健太郎 山野 善郎
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2403
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>現在、東京大学・京都大学等の旧帝国大学系の大学や、早稲田大学・慶應大学・同志社大学といった伝統的私立大学では、いわゆる「自校史」教育として、各々、各大学歴史の授業が開講されています。実は、このような試みは、国立大学としては九州大学が最初に始めたものであり、約17年の歴史を持っています。法人化を迎えた国立大学は、常に自らの歴史を振り返り、有るべき姿を模索し続ける必要があります。当科目はこのような視点に立ち、九州大学の歴史と大学を巡るいくつかの問題について考えます。九州大学は、1911年に設置された九州帝国大学から始まりましたが、その前身は1903年創設の京都帝国大学福岡医科大学にあり、更に、明治初期の福岡医学校まで遡ります。百四十年を越える伝統ある大学です。わが国の高等教育制度を踏まえながら、私達の学ぶ九州大学の歴史や大学そのものについて一緒に考えます。</p> <p>Nowadays, in Japan's former Imperial Universities as well as in those amongst its private universities which have a long and distinguished tradition, as part of academic education regular lectures on what is called 'The history of one's own educational institution' are given. Within the ranks of this country's National Universities, Kyushū University was the very first to introduce this subject of education, that allows students to learn about the history of their Alma mater, aims to promote their understanding of it, in 1997. A university must always reflect on its own history, needs to continuously explore how to become what it ought to be. With such a perspective in mind, in this class we, all together, will discuss different kinds of problems and issues related to Kyushū University and its history.</p>
キーワード	高等教育制度 九州大学史
履修条件等	

履修に必要な知識・能力					
到達目標	No	観点	詳細		
	1.	A:知識・理解			
	2.	B:専門的技能			
	3.	C:汎用的技能			
	4.	D:態度・志向性			
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	4月12日 はじめに(オリエンテーション)・高等教育制度史概説Ⅰ(日本の高等教育) 折田悦郎大学文書館教授	○		
	2.	4月19日 大学の歴史 吉岡斉比較社会文化研究院教授	○		
	3.	4月26日 世界と日本の大学 吉岡斉比較社会文化研究院教授	○		
	4.	5月10日 高等教育制度史概説Ⅱ(日本の高等教育) 折田悦郎大学文書館教授	○		
	5.	5月17日 大学生とはなにか(1)―「学徒出陣」と「大学紛争」から考えてみる― 藤岡健太郎大学文書館准教授	○		
	6.	5月24日 大学とキャンパス空間 山野善郎氏(建築史塾Archist・非常勤講師)	○		
	7.	5月31日 大学生とはなにか(2)―「大衆化」し「下流化」している大学の中から考えてみる― 藤岡健太郎大学文書館准教授	○		
	8.	6月7日 高等教育制度史概説Ⅲ(九州帝国大学) 折田悦郎大学文書館教授	○		
授業以外での学習にあたって					
テキスト	教科書として新谷恭明・折田悦郎編『大学とはなにか―九州大学に学ぶ人々へ―』(海鳥社)を使用します。また、講義では資料を配付することもあります。				
参考書					
授業資料					
成績評価					
成績評価基準に関わる補足事項					
ルーブリック					
学習相談					
添付ファイル					
その他					
更新日付	2017-03-30 09:17:21.418				



シラバス参照



講義科目名	映画の世界
科目ナンバリングコード	KED-GES1221J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限 春学期 水曜日 5時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	鈴木 右文
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2306
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>映画を単なる娯楽としてではなく、歴史や異文化を学ぶ手段として分析的に鑑賞する態度を養います。今回はヨーロッパ、朝鮮半島、米国の作品を扱います。</p> <p>We will learn how to appreciate films in an analytic manner not as entertainment but as a means to understand history and other culture.</p>						
キーワード	映画 アジア 歴史 異文化						
履修条件等	<p>* この授業は5月に授業が実施されるため、4月の授業期間第1週に教室で受講許可の有無を決定することができません。受講希望の方は、ウェブの履修登録システム上で4月14日(金)までに登録を行った後、4月16日(日)24時までに授業オーガナイザー鈴木右文(yubun@fle.kyushu-u.ac.jp)に学生基本メールで、件名を「映画の世界受講申込」として、「氏名」「学部・学科・学年」「学生番号」とともに、登録を行った旨をお送り下さい。履修登録がメール連絡のいずれかが間に合わなかった方は単位認定できません。</p> <p>* 授業は5/17, 5/24, 5/31, 6/7の4、5限連続4回になります。全回出席を強く要請します。</p> <p>* 第1回目を含めて4回とも冒頭から上映がありますので、遅刻は厳禁、途中での出入りはマナー違反です。</p>						
履修に必要な知識・能力							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

PAGE TOP

到達目標	1. A:知識・理解	映画を分析的に理解できるようになる。			
	2. B:専門的技能	映画が描く歴史や異文化が理解できるようになる。			
	3. C:汎用的技能	作品について評論を書くことができるようになる。			
	4. D:態度・志向性	映画を芸術として鑑賞することができるようになる。			
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	第1日(5・17) ピフォア・ザ・レイン 上映と講義	○		
	2.	第2日(5・24) 安重根、伊藤博文を撃つ 上映と講義	○		
	3.	第3日(5・31) 風の輝く朝に/等待黎明 上映と講義	○		
	4.	第4日(6・07) マジソン郡の橋 上映と講義	○		
授業以外での学習にあたって	レポートを書くための調査や関連作品の鑑賞				
テキスト	定めない				
参考書					
授業資料	適宜プリントを配布				
成績評価					
成績評価基準に関わる補足事項	レポートと出欠状況が極めて重要。				
ルーブリック					
学習相談	授業後に教室にて。鈴木は適宜アポをとっていただいた上で研究室での面談も可。				
添付ファイル					
その他	<p>* 最終回は、授業評価アンケートに対応できる端末を持参して下さい。 * 遅刻せずにおいで下さい。 * 上映を妨げるので授業開始時刻以降の授業中の入退室は原則として禁止。トイレも事前に済ませて下さい。 * 携帯はマナーモード等にして使用はしないでください。携帯画面の光も上映の妨げになります。 * 16:20-40は休憩の予定ですが、上映の都合で若干時間帯をずらしたり、短縮させていただくことがあります。 * 急遽の休講の場合は、掲示にて対応の連絡を行います。</p> <p>この科目はEU研究ディプロマプログラム(EU-DPs)開講科目です。同プログラムについて、詳しくは以下のサイトをご参照ください。http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html * 履修要項にある理由で教務係に正規手続するか公認部活動の正式の大会の遠征証明書が出る場合のみ公欠扱いにします。診断書や交通機関の遅延証明等は受け取りますが、扱いは最終成績判定時に決めます。 * メールでのやりとりは学生基本メールでお願いします。</p>				
更新日付	2017-04-04 21:52:54.403				



シラバス参照



講義科目名	女性学・男性学 I
科目ナンバリングコード	KED-GES1116J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	阿尾 安泰 瀬口 典子 武内 真美子 谷口 秀子 中村 美亜 山下 亜紀子 野々村 淑子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	「女性学・男性学Ⅱ」との連続受講が望ましい。 【複数担当教員】田中友佳子、坂岡庸子、阿尾安泰、石岡学、青野純子

PAGE TOP

授業概要	<p>本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。</p> <p>The aim of this course to help students know the various problems and phenomenon in the present 'gender equal society', and acquire the ability of critical thinking about them. The lecturers of this class speak important themes from the perspectives and methods of each disciplines, including the many assumptions of 'gender' embedded in the society and academic disciplines.</p>
キーワード	女性、男性、性差、ジェンダー、セクシュアリティ
履修条件等	
履修に必要な知識・能力	授業概要に記載された内容、授業各回のテーマについて、講義をもとに深く考察し、それを表現する意欲を持っていること。

到達目標	No	観点	詳細		
	1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。		
	2.	B:専門的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独自の知見を述べることができる。		
	3.	C:汎用的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。		
	4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。		
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	4/12 田中友佳子／野々村淑子「オリエンテーション」	○		
	2.	4/19 田中友佳子「家族社会史1—〈母〉の誕生」	○		
	3.	4/26 田中友佳子「家族社会史2—戦時体制下の生/性/政」	○		
	4.	5/10 坂岡庸子「命と性を社会とリンクさせるイエ制度」	○		
	5.	5/17 阿尾安泰「メディアにおける女性という表象」	○		
	6.	5/24 阿尾安泰「歴史における女性という表象」	○		
	7.	5/31 石岡学「虚構としての男らしさ」	○		
	8.	6/7 青野純子「美術史とジェンダー」	○		
授業以外での学習にあたって	講義内で紹介された文献等を積極的に読みましょう。				
テキスト	適宜配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
授業資料	適宜配付する。				
成績評価	<p>●評価について</p> <p>1. 出席点 毎回出席カードにて出席をとります。</p> <p>2. レポート 《課題》 第1回から第8回までの5人の教員が、それぞれ1つずつのレポート課題を講義中に提示します。 《形式》 出席カードとは別に配布するB5版OCR用紙に、レポートを記入する。 手書きでも、指定用紙へのワープロ印刷、またはワープロで印刷し、指定用紙へのホチキスどめ、いずれも可。 分量は、手書きであれば指定用紙表裏に常識的な字のサイズで記入。800字～1000字程度を基準とする。 指定用紙への氏名、学籍番号の記入、マーク記入は必須。 《提出要領・締切》 それぞれの教員の講義の最終に課題を出すので、次週の水曜日14時まで提出すること。 1回のみ担当する教員の講義を欠席した場合、講義を聞かずにレポート課題は書くことはできないので、レポートは受理しない。 《提出先》 基幹教育教務係のレポート・ボックス</p> <p>4. 評価方法 出席点とレポートの評価点を勘案し、総合的に評価します。</p>				
ルーブリック	女性学・男性学講義ルーブリック.pdf				

学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-10 11:29:47.204



シラバス参照



講義科目名	女性学・男性学Ⅱ
科目ナンバリングコード	KED-GES1117J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	夏学期
曜日時限	夏学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	阿尾 安泰 瀬口 典子 武内 真美子 谷口 秀子 中村 美亜 山下 亜紀子 野々村 淑子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	2406
その他 (自由記述欄)	「女性学・男性学Ⅰ」との連続受講が望ましい。 【複数担当教員】野依智子、山下亜紀子、谷口秀子、瀬口典子、中村美亜、野々村淑子

PAGE TOP

授業概要	<p>本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。</p> <p>The aim of this course to help students know the various problems and phenomenon in the present 'gender equal society', and acquire the ability of critical thinking about them. The lecturers of this class speak important themes from the perspectives and methods of each disciplines, including the many assumptions of 'gender' embedded in the society and academic disciplines.</p>
キーワード	女性、男性、性差、ジェンダー、セクシュアリティ
履修条件等	
履修に必要な知識・能力	授業概要に記載された内容、授業各回のテーマについて、講義をもとに深く考察し、それを表現する意欲を持っていること。

到達目標	No	観点	詳細		
	1.	A:知識・理解	生活や労働の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向などを、的確に説明できる。		
	2.	B:専門的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の動向について、文献を渉猟し、独創的知見を述べるができる。		
	3.	C:汎用的技術	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差について、社会的文脈に沿い、深い知見を述べるができる。		
	4.	D:態度・志向性	労働や生活の諸側面に即し、ジェンダー、セクシュアリティ、家族などの現象や概念など性差についての研究の成果に高い問題意識を持つことができる。		
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
	1.	6/14 野依智子「女性労働の現状と歴史」	○		
	2.	6/21 野依智子「男女共同参画社会の実現をめざして」	○		
	3.	6/28 山下亜紀子「ケアをめぐるジェンダー問題を考える」	○		
	4.	7/5 谷口秀子「児童文学、ポップカルチャーをめぐる女性学・男性学」	○		
	5.	7/12 瀬口典子「自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ」	○		
	6.	7/19 中村美亜「LGBT:性とアイデンティティをめぐる科学と政治」	○		
	7.	7/26 野々村淑子「まとめ」		I、IIを通したふりかえりとディスカッションを行う。	
授業以外での学習にあたって	講義内で紹介された文献等を積極的に読みましょう。				
テキスト	適宜配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
授業資料	適宜配付する。				
成績評価					
成績評価基準に関わる補足事項	<p>●評価について</p> <p>1. 出席点 毎回出席カードにて出席をとります。</p> <p>2. レポート 《課題》 第1回から第7回までの5人の教員が、それぞれ1つずつのレポート課題を講義中に提示します。 《形式》 出席カードとは別に配布するB5版OCR用紙に、レポートを記入する。 手書きでも、指定用紙へのワープロ印刷、またはワープロで印刷し、指定用紙へのホチキスどめ、いずれも可。 分量は、手書きであれば指定用紙表裏に常識的な字のサイズで記入。800字～1000字程度を基準とする。 指定用紙への氏名、学籍番号の記入、マーク記入は必須。 《提出要領・締切》 それぞれの教員の講義の最終に課題を出すので、次週の水曜日14時まで提出すること。 1回のみ担当する教員の講義を欠席した場合、講義を聞かずにレポート課題は書くことはできないので、レポートは受理しない。 《提出先》 基幹教育教務係のレポート・ボックス</p> <p>4. 評価方法 出席点とレポートの評価点を勘案し、総合的に評価します。</p>				

ループリック	女性学・男性学講義ループリック.pdf
学習相談	
添付ファイル	
その他	
更新日付	2017-04-08 14:07:04.896



シラバス参照



講義科目名	科学の進歩と女性科学者 I
科目ナンバリングコード	KED-GES1148J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	春学期
曜日時限	春学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	渡邊 壽美子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>科学史において、男性科学者に比較し、女性科学者として生きていくことは、より狭き門であった。そこで史実・様々な文献を通し、女性科学者たちが『如何に困難を乗り越え、輝かしい功績を残せたのか』『その功績は科学の進歩にどのような役割を果たしたのか』等について学び、彼女たちの強い意志・当時の時代背景を学習する。主に、20世紀に活躍した女性科学者を取り上げる。また、関連した他の研究者たちや大学、研究所についても紹介する。</p> <p>The purposes of taking this course are to know and understand woman scientists through their experiences and to obtain some of the wisdom they had gained. In each of the course's 8 lessons, I introduced a woman scientist and her work, her co-workers and her affiliations, using slides and other materials. As an evaluation of the course, I had the students complete a questionnaire survey and write a report about woman scientists.</p>						
キーワード	時代背景、研究者の資質と責任、性別、家族・友人関係						
履修条件等	なし						
履修に必要な知識・能力	高校卒業レベル						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	観点	詳細			
No	観点	詳細					

PAGE TOP

到達目標	1. A:知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる								
	2. B:専門的技能	科学者の文献・資料等を検索後、要約できる								
	3. C:汎用的技能	科学者の業績および人生から学び取ったことを説明できる								
	4. D:態度・志向性	授業2/3以上出席し、アンケート等に回答できる								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	DNA二重らせん構造発見にまつわる人々	○							
	2.	ロザリンドフランクリン	○							
	3.	ドロシーホジキン	○							
	4.	バーバラ・マクリントック	○							
	5.	リータ・レーヴィ・モンタルチャーニ	○							
	6.	ガートルード・ペル・エリオン	○							
	7.	レイチェル・カーソン	○							
	8.	レポート作成								
授業以外での学習にあたって	女性科学者に関して、図書館、ネット等で調べる									
テキスト	なし									
参考書	<p>生命とは何か (Erwin Schrödinger (岡小天・鎮目恭夫訳):岩波書店)、細胞工学 別冊『分子生物学の誕生 奇跡の年1953年 上』(鈴木理:秀潤社)、トートラ 人体の構造と機能 第4版(桑木共之他共訳:丸善)、ダークレディと呼ばれて(ブレンダ・マドックス:化学同人)、The Third Man of the Double helix (Maurice Wilkins:Oxford University Press)、The Double Helix (James D Watson:A Norton critical Edition)、分子生物学の軌跡:パイオニアたちのひらめきの瞬間(野島博:化学同人)、お母さんノーベル賞をもらう(中村桂子・友子訳:工作舎)、美しき未完成(自伝)(リータ・レーヴィ・モンタルチャーニ:平凡社)、科学者の女性史(宮田新平:創知社)、シンプル病理学(笹野公伸:南江堂)、20世紀の女性科学者たち(ルイス・ハーバー(石館三枝子・中野恭子訳):晶文社)、A FEELING FOR THE ORGANISM(Evelin Fox Keller:W.H.Freeman and Company)、レイチェル・カーソン(上岡克己・上遠恵子・原強 編著:ミネルヴァ書房)、Silent Spring(Rachel Carson:Penguin Books)、レイチェル レイチェル・カーソン『沈黙の春』の生涯(リンダ・リア(上遠恵子訳):東京書籍)、MOLECULAR STRUCTURE OF NUCLEIC ACID(J.D. Watson,F.H.C.Crick:NATURE vol.171, 737-738, 1953)</p>									
授業資料	教員から配布									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	◎	○					80%
					◎					10%
	アンケート	○	○	○	○					10%
成績評価基準に関わる補足事項	2/3の出席をレポート提出要件とする。レポート課題は5月中に発表する。									

ループリック	ループリック:平成29年度 科学の進歩と女性科学者 I.pdf
学習相談	授業終了後、もしくは watanabs@med.kyushu-u.ac.jp までメールを下さい。
添付ファイル	
その他	『科学の進歩と女性科学者 I』受講だけでも構いませんが、できれば『科学の進歩と女性科学者 II』と合わせて受講していただくと、理解しやすくなると思います。
更新日付	2017-03-30 15:14:50.321



シラバス参照



講義科目名	科学の進歩と女性科学者 II
科目ナンバリングコード	KED-GES1149J
講義題目	
授業科目区分	総合科目 General Subjects
開講年度	2017
開講学期	夏学期
曜日時限	夏学期 水曜日 4時限
必修選択	
単位数	1.0
担当教員	渡邊 壽美子
開講学部・学府	基幹教育科目
対象学部等	
対象学年	
開講地区	伊都地区
使用言語	日本語(J)
使用言語 (自由記述欄)	
教室	1305
その他 (自由記述欄)	

授業概要	<p>『科学の進歩と女性科学者 II』では『科学の進歩と女性科学者 I』で紹介した以外の女性科学者を取り上げるとともに、その礎となった昔の女性科学者たちにも焦点をあてる。そして『もし、自分だったらどう対処するか』『現在の私達にできることは何か』等について考察し、『生きるヒント』を模索する。</p> <p>The purposes of taking this course are to know and understand woman scientists through their experiences and to obtain some of the wisdom they had gained. In each of the course's 8 lessons, I introduced a woman pioneer scientist and her work, her co-workers and her affiliations, using slides and other materials. As an evaluation of the course, I had the students complete a questionnaire survey and write a report about woman scientists.</p>							
キーワード	時代背景、社会的地位、研究者の資質と責任、性別、家族・友人関係							
履修条件等	なし							
履修に必要な知識・能力	高校卒業レベル							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>観点</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>A: 知識・理解</td> <td>科学者の業績および人生を説明できる</td> </tr> </tbody> </table>		No	観点	詳細	1.	A: 知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる
No	観点	詳細						
1.	A: 知識・理解	科学者の業績および人生を説明できる						

PAGE TOP

到達目標	2. B: 専門的技能	科学者の文献・資料等を検索後、要約できる								
	3. C: 汎用的技能	先駆的科学家の業績から将来解決すべき問題点を述べられる								
	4. D: 態度・志向性	授業2/3以上出席し、アンケート等に回答できる								
授業計画	No	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習					
	1.	マリー・キュリー	○							
	2.	イレヌ・ジョリオ・キュリー	○							
	3.	リーゼ・マイトナー	○							
	4.	マリア・ゲッペルト・マイヤー	○							
	5.	エレン・スワロウ・リチャーズ	○							
	6.	保井コノ、湯浅年子	○							
	7.	レポート作成								
	8.	まとめ	○							
授業以外での学習にあたって	女性科学者に関して、図書館、ネット等で調べる									
テキスト	なし									
参考書	生命とは何か(Erwin Schrödinger(岡小天・鏡目恭夫訳):岩波書店)、お母さんノーベル賞をもらう(中村桂子・友子訳:工作舎)、科学者の女性史(宮田新平:創知社)、シンプル病理学(笹野公伸:南江堂)、マリー・キュリー フラスコの中の闇と光(B・ゴールドスミス(竹内喜訳):WAVE出版)、リーゼ・マイトナー 嵐の時代を生き抜いた女性科学者(R・L・サイム(鈴木淑美訳):シュプリンガー・フェアラーク東京)、20世紀の女性科学者たち(ルイス・ハーバー(石館三枝子・中野恭子訳):晶文社)、ELLEN SWALLOW - The Woman Who Found Ecology(Robert Clarke(工藤秀明訳):新評論)									
授業資料	教員から配布									
成績評価	評価方法・観点	観点No.1	観点No.2	観点No.3	観点No.4	観点No.5	観点No.6	観点No.7	観点No.8	備考(欠格条件・割合)
		◎	◎	◎	○					80%
					◎					10%
	アンケート	○	○	○	○					10%
	成績評価基準に関わる補足事項	2/3の出席をレポート提出要件とする。								
ルーブリック	ルーブリック:平成29年度 科学の進歩と女性科学者 II.pdf									
学習相談	授業終了後、もしくは watanabs@med.kyushu-u.ac.jp までメールを下さい。									

添付ファイル	
その他	『科学の進歩と女性科学者 II』受講だけでも構いませんが、できれば『科学の進歩と女性科学者 I』と合わせて受講していただくと、理解しやすくなると思います。
更新日付	2017-03-30 15:15:53.268

